

新入生用

新入生及び保護者の皆様

名古屋大学総合保健体育科学センター
保健管理室長 山本明子

学内における麻疹（はしか）、風疹、百日咳などの集団感染予防等についてご協力のお願い

保護者の皆様へのご協力のお願いとしまして、お子様が健診予約を web 申し込みする際に、感染症の既往の有無とワクチン接種についての問診がありますので、母子手帳を用意し、お子様と一緒に入力をお願いいたします。入力の有無は保健・スポーツ科学の授業の際に確認させていただきますので、授業開始前に必ず入力をお願いいたします。

お子様を守るために必要なワクチンがあります。VPD (Vaccine Preventable disease; ワクチンで防げる病気の略。フィジカルヘルス研究会一般社団法人国立大学保健管理室施設協議会 <https://phf.jp/download.html> を参照ください。髄膜炎菌感染症は、髄膜炎菌が原因で起こる全身性の感染症であり、とりわけ、侵襲性髄膜炎菌感染症は、発症すると 24-48 時間以内に命を失うこともある重大な感染症です。初期症状は風邪に似ていて、診断が困難です。集団生活やコップなどの共有が感染リスクとなり、国内の学生寮でも死亡例が報告されています。侵襲性髄膜炎菌感染症の予防にはワクチンが有効であり、特に学生寮や運動部などで集団生活を行う人は、ワクチンを接種することをお勧めします。

2007 年に高校生や大学生を中心に麻疹等の感染症が流行し、多くの学校が休講措置となりました。流行の原因としては、ワクチン未接種者や未罹患者に加え、ワクチン接種したにもかかわらず長年経過したために、免疫が低くなり集団の免疫保有率が低下したことに起因すると思われます。

現在、幼児では、麻疹風疹混合ワクチン（MR ワクチン）を用いた 2 回の定期接種が開始されています。また最近では、風疹については、妊娠前の成人女性やその家族に対してもワクチン接種が行われています。

予防接種を受けたことがない人はもちろん、1 回は受けたが、2 回目がまだであれば、予防接種を入学前に受けることをお勧めします。特に、成人麻疹（15 歳以上の青年層に発症する麻疹）は、免疫低下状態が長く続くと報告され、合併症の脳炎や肺炎等になり、重症化して入院を要することが多くなっています。脳炎にかかってしまった場合、60%の者は完全に回復しますが、20-30%は精神発達障害、けいれんなどの後遺症を残すと言われています。麻疹のみならず、風疹、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）に関しても同様に、合併症が懸念されます。

百日咳に関しても、DPT 三種混合ワクチン接種（ジフテリア・百日咳・破傷風）は、第1期初回として生後3～90カ月（標準的には生後3～12カ月）に3回、及びその12～18カ月後に追加接種を行い、第2期として11～12歳に、百日咳を除いたDT 二種混合ワクチンによる接種が行われています。また、任意接種ですが、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、水痘を含め、罹患歴、予防接種歴を母子手帳などでご確認ください。この機会に、様々な予防接種の接種状況を把握しておくことをお勧めします。

とりわけ、女子の HPV（ヒトパピローマウイルス；子宮頸がん・肛門がん・膣がんの発生に関与）ワクチンは HPV 感染機会前（初交前）の接種が望ましいワクチンではありますが、多様な型の HPV 感染予防の観点からは性交渉があっても未接種の方に関しては、接種をお勧めします。

最後に、保健管理室には内科医・精神科医・保健師・看護師が常在していますので、身体面・精神面で不安があればご相談にいらしてください（詳細は学生便覧をご参照ください）。

以上、よろしくお願い申し上げます。